

## スカイプ等を活用した個人スーパービジョンについて

- ◇ 個人スーパービジョンの実施におけるスカイプ等の VoIP (Voice over Internet Protocol) 等の活用は、近くにスーパーバイザーがいないなどの状況に対してスーパービジョンの機会保障をする観点から実施を認めるものであり、スーパービジョンの実施においてスカイプ等の使用を推奨するものではない。したがって、スカイプ等の使用におけるリスク管理も含めてスーパーバイザーとスーパーバイジーとの間で了解し、両者の責任で行うものとする。
- ◇ スカイプ等を活用した個人スーパービジョンも、直接会って行う個人スーパービジョンと同等となることを前提としている。したがって、個人情報や事例の取扱い等スーパービジョンにおける注意事項は直接会って行う個人スーパービジョンと同様である。
- ◇ スカイプ等活用した個人スーパービジョンは、映像付きを原則とし、音声のみによるスーパービジョンは認めない。また、①以前に同一の者とスーパービジョンを実施したことがあるとき、②スーパービジョン以外で関係があり相手を十分に知っているとき次の場合を除き、事前面談については直接会って行わなければならない。

なお、スカイプについては、その特性から、次のようなリスクが想定されます。スカイプを活用したスーパービジョンを実施する場合には、下記の参考事項に注意してください。

### (スカイプのリスク)

- ① スカイプは LAN 内からファイアウォールを迂回して外部の PC に接続することができ、しかも、P2P (peer to peer) の暗号化技術が非公開のため、通信内容を知ることが事実上できないことから、外部から LAN 内の PC に直接アクセスされる (セキュリティホールができる) 可能性がありながら、そのことを暗号化のため検出・追跡することが非常に困難というリスクが存在します。
- ② スカイプは、サーバを経由せず直接ユーザ同士を結んで通話とデータ転送を行うためにスーパーノードという仕組みを用いています。スーパーノードはスカイプが一定の基準で割り当て、どのユーザがスーパーノードになるのか知ることはできない仕組みです。もし、同じ LAN 内にスーパーノードが存在すると、その PC がネットワーク外の PC とファイアウォールを介さずに接続するポイントになります。また、より速いシステムにスーパーノードという負荷の高い役目を割り当てる仕組みとなっているため、特に大学など非常に速い回線と高性能なコンピュータ複数台を有している研究施設機関等がスカイプを利用することは、負荷の高いスーパーノードの役目を割り振られる確率が高く、ネットワークやコンピュータの処理速度に大きな負荷を背負うリスクが高くなります。(実際、いくつかの研究機関のネットワークシステムがスカイプを利用していたことによってダウン寸前まで追いつめられたことがあると言われてしています。)

### (参考) スカイプ等を活用した個人スーパービジョンを実施する際に注意すべき事項

#### 1. スカイプ等実施方法の両者の合意

- ① スカイプ等の活用に心配や不安がある場合は実施しない。
- ② スカイプ等の使用におけるリスク管理も含めてスーパーバイザーとスーパーバイジーとの間で了解し、両者の責任で行うものとする。

## 2. 両者の信頼関係の構築

- ① 次の場合を除き、事前面談については、直接会って行わなければならない。
  - ・以前に同一の者とスーパービジョンを実施したことがあるとき
  - ・スーパービジョン以外で関係があり相手を十分に知っているとき
- ② スカイプ等でのスーパービジョンを実施する前に、スーパーバイザーとスーパーバイジーが信頼関係を築いていることが確認されなければならない。

## 3. パソコン、スマートフォン等の使用機器の設定整備

- ① パソコンの OS を最新バージョンにし、Windows XP などサポートが終了した OS は使用してはならない。
- ② ウイルス対策ソフトを必ずインストールし、ウイルス定義ファイルなどは最新のものにしなければならない。
- ③ スカイプ等をインストールする際は正規サイトから行い、スカイプ等を最新バージョンにしなければならない。
- ④ スカイプ等のパスワードは、アルファベット、数字、記号、大文字小文字を組み合わせるなどできるだけ強化しておかななければならない。
- ⑤ 映像付きを原則とし、音声のみによるスーパービジョンは認めない。
- ⑥ スカイプ等を利用したスーパービジョンは、機器に記録を残してはならない。(ボイスチャットについては録音してはならない。テキストチャットについては、あらかじめ「履歴を残さない」設定としなければならない。)

## 4. インターネット環境の整備

- ① 実施するエリアのインターネット環境を確認し、安定した通信状況のもとに実施しなければならない。
- ② 実施中に通信状況が不安定となり、万が一、通信が途切れた場合は、もう一度やり直さなければならない。(セッションが成立しなかった場合は、別日程でやり直すこと。)

## 5. 実施場所の両者の合意

- ① 守秘義務が遵守できる他者のいない場所で行わなければならない。
- ② 実施場所について覚書に明記し、実施場所の環境を相互に事前に了解せずに行ってはならない。

## 6. 書類の送付について

- ① スーパーバイジー個人記録などを書類のやりとりに関しては、FAX で文書送付する場合は、受信した用紙が他者の目に触れないよう、送信時には送信開始を連絡しなければならない。
- ② メールで文書送付する場合は、個人アドレスを使用することとし、他者との共用アドレスの使用は認めない。
- ③ メール、スカイプ等で文書送信する場合は、必ずパスワードをかけ、パスワードをメール等で連絡する場合は、ファイルを添付したメール等とは別に連絡をしなければならない。
- ④ ファイルの誤送信を防ぐため、ファイルの送信はスーパービジョンのセッション開始前に行い、セッションの途中にファイル送信は行わない。

以上